

# 善隣

No.517 通巻784

2020年（令和2年）12月1日発行（毎月1日発行）

2020 12





# 善隣 目 次

2020年12月号

**公開講演会記録**

- 満州国建国に至る足跡 ..... 小野寺 直 2

**瞽女と瞽女唄に寄せて**

- 伝統社会とともに生きた瞽女さんが遺してくれたもの ..... 藤川琢馬 10

**さくらびと**

- 松前の血脉桜 ..... 細川呉港 20

**中国ウォッチング** ..... 編・訳 上松玲子 28**会員彼是**

- ヒトとネコとニワトリが同化する島 ..... 中川啓造 30

**陶々俳壇** ..... 馬場由紀子選 31

- 協会通信・同好会だより ..... 32

- 2020年12月の行事予定 ..... 33

**善隣** 第517号 通巻784号

2020(令和2)年12月1日発行

発行所 〒105-0004 東京都港区新橋1-5-5  
一般社団法人 国際善隣協会  
TEL 03 (3573) 3051  
FAX 03 (3573) 1783  
発行人 矢野一彌  
編集 原田克子  
校正 朝 浩之、福富和美  
印刷所 (有)おんプレス  
定価 一部400円 年額4,800円  
振替 00120-0-145956  
国際標準逐次刊行物 ISSN 0386-0345  
©禁無断転載

**みんなの写真館** ..... 32

(原田克子、村田嘉明、中川啓造)

——。——。——。——

当協会は、中国ならびに近隣諸国との相互理解を深め、友好親善・交流を推進しています。

一般社団法人 国際善隣協会

# 満州國建国に至る足跡

一般財団法人 大日本国国体府 国体皇 小野寺 直



初めに、近代日本国家は明治維新運動の皇統の正閨問題の錯覚において成り立ち、その問題解決のために満州國を建国し、それを五族協和の理想國家とする精神も霸権主義の詭弁に毒されてしましました。

本来「五族協和」とは、共存共榮の対等な思想に基づくものでなければならぬのであります。

明治維新の原点となつた思想は、後醍醐天皇の止むにやまれない国体皇統存続のための討幕思想が根底にあるものでしたが、明治維新政府により一方的に賊軍とされた仙台藩に公歷1868年戊辰に擁立された通称東武皇帝と称された人物が存在していました。

同12年5月28日太政大臣となつた三条実美氏は再度「内閣修史館」を興し総裁に就任。

筆者はその玄孫にあたります。

皇位の絶対的璽とした「神器」に関しても調査しましたが、その繼承の歴史は明確

が明治2年4月4日内閣に修史局を設け自ら修史総裁となって調査した結果、東武皇帝は後醍醐天皇の皇統にあたる人物であったことを知り「修史局」を閉鎖、問題解決のために明治8年元老院を開設して2年後に『皇位繼承論』を作り、「皇位に正位・不正位の別或るを詳論して正統の所在とする」と議決しました。

そこで参事院議官福羽美静氏は、「内閣に顧問局を置き国体に関する調査を為し、以つて憲法制定準備に資すべき」の言上をなしました。

それは嘉吉元（1441）年將軍足利義教を殺害して改易とされた赤松満祐の家臣残党が吉野に忍び入り、この長禄の年に『神器』を奪い取らんため吉野の一宮・二宮を殺害したと赤松残党の『上月記』に記載された記事に基づくところで、北朝の後報恩院関白九条経教の子息で大和国興福寺大乗院門跡となつた大僧正経覚の『日記』とは事実記載が相違し『日

記』には「一宮ハ奥逃引籠ラレル」とあります。

そうして『大政紀要』の凡例に、「但し北朝五帝は並に帝と書し天皇と称せず。以つて正閏の別を明かす」と記しました。

翌17年「憲法制度取調局」が設置され、

翌18年12月「内閣制度」を制定。

明治22年2月、憲法発布となり、翌年東京高輪東禅寺山内（旧伊達家墓所）に設けられていた筆者の玄祖父東武皇帝こと大政天皇陵墓は明治官憲によって破壊され、維新時の国体南大皇の存在は一切消し去られましたが、東京帝国大学編年史編纂において『国史眼』を刊行。「南朝を正位」と記載し発表。



東京都港区東禅寺に再建された碑

と記載されました。國体南朝皇統の正統である玄祖父は戊辰の国事犯とされたまま巷間に隠れ明治17年正月3日に崩御されました。

## 南朝正統論の復活

明治36年第1次桂内閣の国定教科書制度の創始において、「皇統順位を明記しうる時期至るまで姑く両朝の正閏輕重に触れるを探る」との方針を立て同年編集の国定教科書『小学日本歴史』の第二南北朝の項に、「これより同時に二天皇あり、吉野の朝廷を南朝といひ、京都の朝廷を北朝といふ。かくて宮方・武家方の争いはつひに両皇統の御争の如くなれり」との見解に立ち編集刊行されました。

問題の当事者となつた喜田貞吉氏は昭和8年の『六十年之回顧：還暦記念』の中で、「後花園天皇は御即位前には單に一諸王として後伏見天皇からは所謂五世王の御身分となる。大宝令の制定によれば五世王は王の名を有すると雖も、皇親の限りにあらずとある。修正教科書には大宝令の規定に従つて、崇光・後光嚴・後円融三天皇の親王号をも認めず、之を諸王の列に下し奉つて居るのである。（中略）然らば後花園天皇は、皇親にあらずして即位し給つた事になる」と記さ

れています。

この教科書問題に端を発して国民の中に自然と大義名分が論じられるようになりました。

## 立憲国民党總理大養毅の南朝皇統の正位演説

明治44年2月23日の帝国議会衆議院秘密会において立憲国民党總理大養毅氏は、「此明治維新ト云フモノハ何デナツテ居ルカ、明治維新王政復古ハ確ニ南朝ヲ正統トスルトコロノ精神ノ活動デアル。

此活動ハ政治ノ萬般ノモノニ現ハレテ基礎ガチャント打立テラレテ居ルデハナイカ、何ヨリ證據斯ヤウナモノガアル、茲ニ皇位繼承篇ト云フモノガアル、皇位繼承篇ナルモノハ如何ナルトコロデ出来タカト云フト是ハ元老院ノ官撰デアルガ前ノ有栖川宮殿下ノ題字ヲ賜ッテ居ルモノニハ之ニハドウナツテ居ル、餘程餘程過激ナ文字ガ使ツテアル、北朝ハ不正位北朝ニ對シテハ不正位トシテアル、官撰デ即チ政府ノナサレタモノデアル、モウ一つハ大政紀要ト云モノガアル、此大政紀要ハ岩倉公爵ガ勅ヲ奉ジテ編纂サレマシタ此中ニハ、現ニ生存サレテ居ルトヨロノ山縣公爵ハ其事ヲ監シ加ハラレテ是は勅撰デアル、元老院デ出来タモノヨリ

カモウ少シ大キナモノデ、此勅撰ニハド  
ウ云ウコトガアルカト云フト南朝正統ト  
云フコトハ明ニ定メラレテアル。

北朝ノ分ハ唯帝ト称スルバカリ天皇ト  
ハ称セナイ（以下略）との決議案の説

明がなされましたが、既に戊辰時から44

年の幾月が経過しており戊辰時に正統な  
国体天皇が仙台藩に奉戴されていましたことを  
知る人々は少なくなっています。

即ち、明治政体府の中でそれを知る人々  
は戊辰戦争に参戦し要となっていた人々  
と、右大臣三条実美氏の修史調査に参加  
した少数の人達、そして明治8年に設立  
された「元老院」の議官に任命された人々  
のみがその存在を知ることができた訳で  
あります。

明治の華族制度で華族として任命され  
た人には当然明治政体側の従属者である  
から戊辰時に国体皇統の出現などという  
問題を回顧し発表する人などはありませ  
んでしたが、ほんの少数の人々において  
はその事実を認識しながらも黙っていました  
のです。

日閣議を以て議定せる後醍醐天皇ヨリ  
後小松天皇ニ至ルノ皇統ヲ

後醍醐天皇

後村上天皇

後龜山天皇

後小松天皇

と上奏し、「（北朝の）光嚴・光明・後光  
嚴・後円融ノ各天皇ハ御歴代中ニ記載セ  
サルコトトシ（中略）後村上天皇ノ次ニ

長慶天皇ヲ加フルモノアリト雖、長慶天  
皇ノ御在位ニ付テハ史家ノ議論一定スル  
所ナク（中略）他日御在位ノ事実判明ノ  
場合ニ於テ御歴代ニ加ヘラルコトニ併セ  
テ聖裁ヲ仰カレ度」の上奏をもって3月

3日内閣総理大臣の上奏及び御諮詢に對  
する枢密顧問の奉答ならびに宮内大臣の  
上奏を採納裁定されました。

前年6月の幸徳事件の出発点は箱根大  
平台所在林泉寺の住職内山愚童和尚の明  
治政体を批判した檄文に始まり、それが  
政体側の予審判事の手で「大逆事件」と  
して、事件が捏造され社会主義者が弾圧  
され、南朝正統主義者達も皇統の実体を  
知らない一般民衆から最初は社会主義者  
と看做されました。

明治28年10月清国革命を謀り失敗し日  
本に移住していた孫文も初めは社会主義者  
の如く看做されていました。

## 内閣総理大臣桂太郎の 南朝皇統正位の上奏

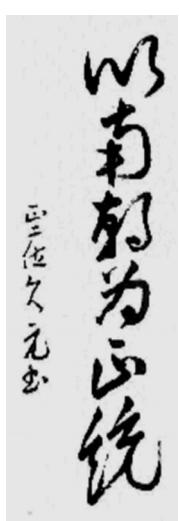
明治44年2月28日内閣総理大臣公爵桂  
太郎氏は明治大行帝の御座所に謁し「前

## 孫中山閣下の中華革命 満州国の遠因

明治37年帝政ロシアと清国北方領土  
(満州) の大地において戦争した日本陸軍  
は迫り来る世界の経済恐慌の中で、恐慌  
への対処策として貧農家救済を目的とし  
た満蒙の開拓利権拡張を進めていました。  
日本の志士、大陸浪人の支援のもと孫中  
山氏の中華革命が成立し中華民国が成立。  
孫中山氏が臨時大総統に就任しましたが  
政権は安定せず孫中山氏は常に北方ロシ  
アからの軍事侵略を恐れています。

その頃、日本国内では桂内閣において  
「南朝正統」が閣議決定され南北朝正閏  
論争が盛んに報じられる中、明治大行帝  
が崩御なされ、北朝の血統である政体皇  
統にとつては南北皇統問題の合理的融和  
を図らざるを得なくなりました。

そのために大正3年若かりし頃、土佐  
勤王党として土方楠左衛門と名乗り絶対  
南朝正統主義者であった元宮内大臣の土  
方久元氏を会頭に光格政体帝の息で天誅



組を興した中山忠英氏を会長として南北皇統問題の融和を目的とした、「大日本皇道立教会」が時の内閣総理大臣大隈重信氏を加えて設立されました。

忠英氏は幼少の頃、三条実美氏等の七卿と共に土方久元氏の先導で都落ちした人物であります。

この中山忠英氏の猶子になったのが、明治28年清国革命に敗れ日本に移住し、のち帰国、現在中華民国・中華人民共和国の國父と称される孫中山閣下であります。

孫中山閣下は自ら建国した中華民国を守るために、中華民国の北方地区にロシア軍に対する防衛地帯を設けることを常に考えていました。

孫中山閣下の革命思想のもとには常に南朝革命ともいうべき明治維新、即ち、1919（大正8）年孫中山氏は第一次世界大戦後の抗日愛國運動の中で、「そもそも中国国民党は五十年前の日本志士なのである。日本は東方の一弱国であつ



中央座席：孫文閣下・右座席：頭山満翁

たが、幸いにして維新的志士が生まれた事に依り、初めて奮闘して東方の雄となり、弱国から強国に変じることができた。我が党の志士も、また日本の志士の後塵を拝し中国を改造せんとした」と述べています。

また、大正12年孫中山氏は上海でソ連邦代表ヨーフェ氏と共に共同宣言をなしましたが、その中にも、「日本の維新は中国革命の原因であり、中国革命は日本の維新の結果であり、両者はもともと一つに繋がって東亞の復興を達成する」と、そして盟友の犬養毅氏には、「明治維新は中国革命の第一歩であり、

「中国革命は明治維新の第二歩である」と述べています。

孫中山氏は翌年11月には「大アジア主義」の講演を神戸で行い、日本に対して、

「西洋霸道の走狗となるのか、東洋王道の守護者となるのか」と問いかけています。大正14年3月59歳をもって死去しました。告別に犬養毅氏が祭文を朗読、靈柩は犬養氏と頭山満翁の両名が先発して迎えました。



頭山満翁も後醍醐天皇の「建武中興」の精神を「家神」として信奉し祭った人物で、左の写真は翁の眞跡で子息の秀三氏に伝わり、筆者が満翁の義弟向井定利氏と秀三氏の未亡人宅を訪れたみぎり、記念として筆者の手に渡された品であります。

この頃、筆者の父は妙宗院国風と称し、日露戦争時の大本営参謀を務めた予備役上泉徳弥海軍中将に奉戴され私塾、皇道隊本部を設け国体啓蒙に東奔西走していました。

南北皇統の融和を目的として大正3年に設立された「大日本皇道立教会」の初代会頭で宮内省臨時帝室編集局総裁、正二位勲一等、伯爵土方久元氏は、大正6年11月4日86歳をもって薨去され、久元伯爵の外孫、四条隆愛侯爵が第二代会頭に就任しました。

四条家本流は吉野朝時代、大納言隆資氏、その長子左近衛少将隆量氏や次子參



四条隆徳侯爵からの音信

議隆重氏は後醍醐天皇に仕候した名門であり、隆愛氏の父君隆謙氏は戊辰戦争に政体方の東征大総督府参謀兼仙台鎮台司令官として参戦し明治13年陸軍少将・仙台鎮台司令官として滞仙し、隆愛氏の夫喜公爵の第十女の絲子姫でした。そのような関係からか南朝正統論の盛り上がりの中で父と隆愛氏と子息の隆徳氏の交友は深りました。



大日本帝国法皇名譽会頭(法皇)。筆者の父・小野寺象一郎(妙宗院国風)

隆愛氏の弟、実輝氏は一条忠貞公爵の養子となり忠貞公爵の叔母が昭憲皇太后と呼ばれている明治大行帝の皇后、美子姫であります。

## 世界経済大恐慌のあおりの中で

大正6年、父は偶然一等車中で東京弁護士会副会長の弁護士、小野寺章氏と知り合い、先祖の話から懇意となり義兄弟の盟約を結びました。同9年3月15日東京株式市場は世界の経済恐慌のあおりを受け大暴落となり銀行の取り付けや企業の倒産が全国的に大発生した中で、父は秋葉大助氏を立て資本金2百万で第一興業株式会社を設立、大正13年の関東大震災を乗り越えましたが、一般的にはこの経済恐慌は大陸進出の大きな原因となってしまったのであります。

小野寺章氏は昭和3年の第16回衆議院議員選挙に出馬し当選、犬養毅氏の立憲政友会に所属、立憲政友会の実力者で大養内閣の内閣書記官長を務めた森恪代議士の懐刀と称されるようになり同4年・7年・8年と連続当選しました。

その縁で森氏と並ぶ立憲政友会の実力者久原房之助代議士と父は懇意となり、大正時代の経済恐慌や大震災の波をもろに受けた久原氏に資金支援し、それが縁

となり久原氏も父の支持者となりました。父と久原氏の関係は、犬養内閣の内務参与官を務めた藤井達也代議士の秘書石和作之進が父に宛てた礼状に記されています。

藤井代議士は昭和9年12月に死去。

## 五族協和 立正安國の満州国建設の願い

その頃、父は中華周室の璽・天皇の剣(天の叢雲剣)を継承する周室中華の正統として自らの祖先が霸權で奪われた大地に王仏冥合の精神をもつて五族協和の立正安國・王道樂土の建設を夢見たのです。理想は周室中華の思想を中心となし、宣統帝溥儀を執政として五族協和の王道の建設であり、この父の理想を森恪代議士は理解し父を支持したのであります。

滿州国は中華周室の正統皇の存在なくしては五族協和の王道樂土の建設はなし得ません。故に森恪代議士における大陸政策は侵略行為ではなく大義としての正統な理由が存在していました。この大義を理解することなく政体府の人々は大陸に進行したので、それがために侵略行為となってしまったのです。これらの政策の破綻は明治欽定憲法の矛盾から生じた破綻です。

現憲法では政体天皇を象徴天皇と位置付けておりますが、明治欽定憲法の矛盾をそのまま継承しています。

さて昭和6年9月満州事変が勃発し、

12月11日立憲民政党的若槻礼次郎内閣は内閣不統一で総辞職し、同月13日立憲政友会、犬養内閣が成立しました。

内閣総理大臣に就任した犬養毅氏は戊辰時15歳で、祖父は備中庭瀬2万石の板倉侯に仕えた儒者で藩主勝弘侯は戊辰の役に後醍醐天皇の正嫡、南主を奉戴した福島藩3万石、藩主板倉勝尚侯の伯父であり、また板倉氏の総本家備中松山5万石藩主勝静は桑名藩松平氏からの養子で幕府老中を務め、戊辰戦争に奥州に下り徳山四郎左衛門と改名して参戦しました。

犬養総理は戊辰戦争の実態を正しく熟知し明治44年に国定教科書の南北朝問題を帝国議会で弾劾質問を行い、第二次桂内閣に内閣議決として、「南朝正統」を決定せしめ、結果として明治大行帝の勅旨をもつて南朝の正統・北朝の閏統を国民に周知させる原因を作った人物です。

そうして、父妙宗院國風の王仏冥合・五族協和の理想は犬養内閣総理大臣との与党となつた立憲政友会の実力者、森・久原両氏の協力を得て大勢の協賛者を得るに至りましたが、犬養内閣成立の最大

の功労者であった代議士森恪内閣書記官長と満州における産業経済をもつての自己の再興を最優先と踏まえた与党政友会の幹事長久原房之助代議士が内閣改造問題で対立。

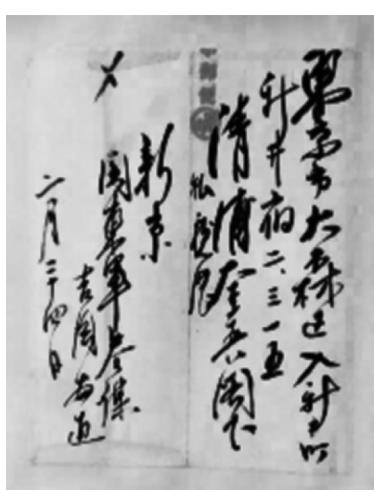
同月26日森代議士が久原代議士に絶交を通告し森代議士はその同志を糾弾して久原討伐の旗を揚げました。

父の代弁人小野寺章代議士は志賀和多利、岡本一巳・川島正次郎・梅村大・佐藤洋之助・森昇三郎・坪山徳弥・田村実・上野基三・瀬川嘉助・宮崎一・勝又春一・松岡俊三・川手甫雄・深沢豊太郎・高橋泰雄・門田新松・益谷秀次・土倉宗明・野方次郎・助川啓四郎・牧野賤男・藤生安太郎・山本壯一郎・大石倫治・川上哲太・小林錠・高橋熊次郎・久山知之・田辺七六・片野重脩・小山田義孝・村田虎之助・中島守利・窪井義道等の代議士と共に森内閣書記官長側に立つて久原氏遂落としに参加し政体の一新を計画したのですが、皇道の誤った国民教育によって育成された陸海軍の青年将校のために同

年5月15日犬養首相は射殺されました。

### 犬養毅氏が考へていた満州国とは

犬養氏は、孫中山氏が中華民国の領土を守るために南下して来るロシア軍を



関東軍参謀吉岡中佐からの音信

防ぐために北方に防御の間衝地帯としての国家を建国し、南下するロシアからの防衛を目指んでいました。

そこに南朝を樹立させ日本の南北朝問題の解決を目的としましたが、盟友孫中山閣下は大正14年逝去され、六年を経て

森恪代議士の努力で犬養毅内閣が成立了のでしたが、政党内の支持は不安定で、関東軍参謀達の満蒙問題と日本国内の矛盾の解決を目指すための「参謀に依り機会を創出し軍部主導となりて国家を牽引する」の戦略は犬養毅氏の満州建国思想と相違していました。

孫中山氏が逝去して6年の歳月の経過の中で大陸の権力者の政策思考はバラバラになってしまっていました。

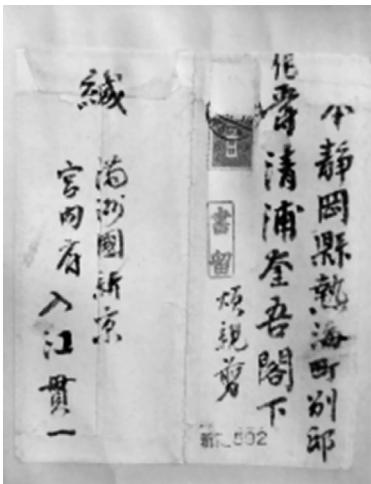
そうした中で犬養氏と森恪氏の大陸政策に相違が発生し森氏は犬養氏から離反

することとなります。当時、満州の地には仙台に本拠を置く第二師団が派遣されました。

師団長の多門一郎中将は楠多門丸正成の血を受け代々南主に仕えた家柄で静岡県駿東の地に誕生し、第二師団長になりました。

第一師団の兵の多くは東北地方の農家出身の人々が多く、当時の東北地域の農家は冷害で大凶作となり困窮のどん底に陥っていたので、満蒙の開拓に夢を託したのであります。

昭和7年3月1日関東軍高級参謀板垣征四郎大佐の裏工作で満州建国が満人によって宣言され、9日、関東軍により溥儀は執政に就任し関東軍参謀等の溥儀執政に対する一時的虚言は満州の地で実体化しつつありました。



満州國宮内省次官入江氏からの音信

父は、現地の実態情報を清浦奎吾伯の音信を通して受けました。

昭和9年3月1日溥儀執政は、満州国皇帝に就任し、明治政体の官僚にとって満州に南主の存在は不要になりました。溥儀皇帝は最初、大清朝の復興の第一步と踏まえていましたが、その実態は満州国の傀儡皇帝でしかなく満州国の次官を務めた日本人の官僚から関東軍の監視のもと、殆どの命令が発せられるようになります。

この間、大陸政策の指導者であった森恪氏は昭和7年12月11日病にて49歳で死去。正四位、顕昭院英咬日恪居士。

小野寺章氏は昭和8年まで当選し第64回帝国議会では予算委員長として活躍したが過労によって任期中の同10年2月3日薨去。従三位勲三等、本法院殿報徳信受日章居士。

父妙宗院国風日象の王仏冥合・五族協和の理想は本来の目的と意義が失われ、軍部によつてそのスローガンのみが理念なく利用され暴走しました。政体府は皇統の正統問題の対応策として、美濃部達吉博士が著した『逐条憲法精義』『憲法撮要』によつて、「天皇機関説」ともいふべき論を立て皇位を行政機関と置き換え北朝政体府の正統論を立てました。

終わりに

富国強兵主義より約60年、霸者として國際社会で権力を保ってきた日本。しかし昭和20年の敗戦によつて、権力を失い、世界有数の経済力を持ちながら國際社会での発言力はそれに比して殆どないと言つて良い状況にあります。

本来、我が国の国体は、天照大日靈貴

それを支持した重臣達を陸軍は、「もし、その統治権が天皇に存せずして天皇は之を行使するための機関なりとなすが如きは、これ全く万世無比なる我が国体の本義をあやまるものなり」「所謂、元老、重臣、軍閥、財閥、官僚、政党等は、この國体破戒の元凶なり」とし、天皇機関説がなぜ説かれたのか、その原因を理解し得なかつた人々によつて、暴力革命運動が起こされ多くの不幸な結果を生じるに至つたのであります。

この不幸の原因是政体府において皇統問題を正しく国民に告知しなかつたがためにあります。

それがために誤った国体明徴運動となり問題の本質義は忘却され閏統天皇家は、「万世一系ノ天皇」とされていったのであります。そして、その結果が昭和20年8月15日の敗戦であります。

と呼ばれた皇祖の神格の大元靈を根本として、しろしめす国として大日本と号しました。

しかし長きにわたり正しい歴史教育が我が国では行われず、日本という国家の存在に対する共通の意識が国民の間に欠落してしまったため、国家として最も重要な意識を国民は積極的に認識してはいません。絶対あつてはならない欺瞞政治が、中世より今日まで我が国の歴史の裏側に息づいてきたのであります。この欺瞞が世界の中では、我が国に対する信頼を失わせると共に、その発言を軽んじせしめています。それを直し、世界を救済することができる者は「世界の盟主」という詩に示され、世に広く紹介されている通りであります。

### 「世界の盟主」

世界の未来は進むだけ進み、その間、幾度か奪い合いが繰り返されて最後にはその奪い合いが無意味な事を知る時が来る。その時、人類は眞實の平和を求めて世界の盟主をあげなければならぬ。

その世界の盟主である者は武力や金の力ではなくあらゆる国歴史を超えた最も古くまた尊い家柄でなくてはならない。世界の文化はアジアに始まってアジア

に還る。

それはアジアの高峰日本に立ち戻らなければならない。

我々は神（天照大日靈貴大神）に感謝する。我々に日本という尊い国を造つておいてくれたことを。

### 時を越えて

周王朝の縁によるものか、胡錦濤中華人民共和国主席より寄贈の書「勇拳高峰」に常の塵灰を払わされ、突然訪ね来た第二代恭親王の孫、愛新覺羅恒鉄氏の三顧の礼を受け、その寄贈の書「風骨」は、まさに如何なる情勢下にあろうと本質義を持ち続けてきた一族の厳しき死生觀を



筆者と愛新覺羅恒鉄氏

顕現したものであろう。

願わくば、これら友愛の信条こそが世界平和の礎にならんことを願うばかりである。

（2020年2月13日・公開フォーラム）

### 筆者略歴（おのでら なおし）

南朝111代当主。明治元年（1868）に即位した大政天皇（通称：東武皇帝）、後醍醐天皇の正裔の曾孫として昭和20年に生まれる。10代にて小野寺育英会主宰、有賀武夫氏の推挙で財団法人芸能文化研究所理事に就任。龜井貫一郎氏の招聘により住友商事津田久社長付特別顧問として従事。川村秀文氏の推挙で社会福祉法人厚生福祉事業団理事に就任。学校法人北九州短期大学理事に就任。中国四川大学客員教授を経て名誉教授に就任。宗教法人太平洋教団代表理事、一般財団法人大日本国国体府国体皇、等を兼任。著書：『正統天皇と日蓮』——ついに明かされる王仏冥合の眞実』『世紀の敗訴——失われた宝と復活した正史』『大日本皇統百八十万年史』『もうひとりの天皇』『皇統の眞実』——南朝一一代主が語る歴史の眞実』他多数。

## 瞽女と瞽女唄に寄せて

伝統社会とともに生きた瞽女さんが遺してくれたもの

藤川琢馬  
(会員)

「瞽女」のことが気になり始めたのはもう15年以上も前である。それは、交通・通信手段の整っていなかつた時代に日本全国に共通する多くのわらべうたが伝えられていることから、唄の伝播に役割を果たしたのは誰かという興味を抱いたことが始まりである。もっとも伝播はわらべうたに限ることでなく、流行り歌・遊戯を含め、情報とまではいわないにしても芸能全般に係わるテーマである。ある書物（朝倉喬司著）で、北関東の民謡「八木節」の発生と流行り（大正中期）に瞽女が係わっていたことを知つた。そこで瞽女についての興味を地元の島出身の一方は、子どものとき出会つたのだったか瞽女に興味をお持ちだつたと

いい、自身が図書館で調べた資料をお貸ししましようとのこと。またもう一方は瞽女唄の貴重なレコードをお持ちで、これを差し上げましようとのこと。お二人のご好意をいただいて私も瞽女について調べてみようと思った。またあるとき、たまたま放映されたNHK新日本紀行「瞽女の唄が聞こえる」（昭和47年）再放送を観て、私の頭の中に次第に瞽女のイメージが広がってきた。さらに、若狭（福井県）出身で、盲目の祖母をもつた思い出をもとに書かれたという水上勉著『はなれ瞽女おりん』瞽女の捷に反したためにひとり漂泊の身となった“おりん”に私の心は奪われた。

結論的にいうと、当初のテーマにはほとんど届くことはなかつたが、もともと瞽

女をわらへうたの伝播と関係づけるのは無理であり、容易に検証できることでもない。上記レコードの解説に記されていてことだが、「亡んでゆくのは本当は瞽女や瞽女唄でなく、我々の都市や文明の方ではないか、瞽女の存在を我々の時代の例外として片付け、亡んでゆくのを守ろうなどと考えてゆくこと自体が、我々の時代の最も貧しくしかも危険なことであるかもしない」という記述（音楽評論家間章氏）が私には重く受けとめられた。それでも、瞽女唄を引き継ごうと活動している人たちがいることを知り、少しはほっとした。

あるとき、私が瞽女に興味を持つていることを知った友人が、彼の居住地近くに見つけた「瞽女淵之碑」を案内してくれ

れた。藤沢市西俣野の境川に面した水田の際に立つかなり大きい石碑で、延宝年間（1673～81）に一人の瞽女が淵に落ちて水死し、その後も絶えなかつたので、ある浪人が人柱となつて入水したといふいわれが刻まれている（2012年8月9日神奈川新聞湘南版、萩原史巨）。私の住む神奈川県のこんな近くにも瞽女さんが来ていたのだと知ると、瞽女の存在はいっそう身近なものとなつた。



昭和40年春、新潟県で。巡業中の瞽女さん一行  
(写真家佐野昌弘氏撮影)

### 瞽女の持つイメージ

昭和50年代まで、私の子どもたちがまだ幼いころだが、家には正月の3日に獅子舞が回ってきた。これは町内会が主催していたものなので旅芸人とは異なるが、来るといつも500円玉を包んだ。3日の午前中、もうそろそろ獅子舞が来

るかもしれないねと話していると、遠くからテンツクテンツクと軽やかな音が風に乗って聞こえてきて、華やいだ気持ちになったものだ。このことから、農村が瞽女さんを迎える気持ちを私もわずかにがら感じることができた。子どもたちがやや大きくなつたころ、もう獅子舞に来られるのは迷惑となり、私サイドは心変わりした。世の中はそんなものだと自分のことからもわかるが、瞽女についていろいろと読み知ったとき、身過ぎ世過ぎの習いとはいえないことであった。「瞽女が重い荷物を背負つて長い道のりを歩く姿は人生そのものを思われる」という95歳になるお婆さんの回想があり、戦後の苦しい時代、自宅に瞽女さんを泊めるのを断り、このことが長く心に引っかかっていたという。お婆さんにとっても瞽女さんにとつても切ない思い出である。

瞽女とは辞書によれば、三味線を弾き、唄を歌つて門付けをし、米や金錢を得た盲目の女芸人というが、こんなそつけない表現で收められてしまうのは何と寂しいことか。その奥には、伝統社会における瞽女さんの生きざまがあつた。社会や農村の変容とともに人々も変わり、もうとっくに瞽女さんはいなくなつた

が、そこにぽつかり穴があいたように感じるのには私だけだろうか。

旅は旅路、旅立ち、旅人、旅芸人、旅回り、旅商人といつた旅のつく言葉のどれも、本来の意味よりは人生の比喩として用いられ、〈旅行〉という言葉に比べずつと深い奥行きを藏しているという。

〈旅〉は遠方へ赴くことを指すが、古くは近くであっても住処を離れて食うこと・寝ることを含む1日の暮らしを他で過ごすことがその本義で、当時の〈旅〉は生活がかかっていた（週刊朝日百科『日本の歴史3 中世I-③ 遊女、傀儡、白拍子』）。盲目という宿命を背負つて旅稼業をする瞽女は、いわば二重の意味で哀れさ、切なさを宿している。

瞽女が瞽女宿で演じる唄の中身からも、瞽女に対してある種のイメージが与えられた。演目の多くは悲劇を内容とし、語る人物が盲目の旅芸人であることから聴く人に共感を呼び、瞽女が演じる人情の機微は、瞽女が語りの技巧に凝らすとも人々の涙を誘い、受け容れられるに十分なものであった（五十嵐富夫著）。また門付唄の多くに見られる素朴なユーモアさえ、瞽女の控えめな演じによっても、刺激の乏しかった伝統社会だったか

らこそ人々に喜ばれた。素朴な人情もユーモアも希薄な現代、瞽女と瞽女唄が持っていた大切な何かが置き忘れ去られた。

### 伝統社会と瞽女

中 静  
なかしづか

ミサオさんら長岡瞽女の門付けに同行したときのこと（昭和51年10月時、五十嵐著）が記されている。「手引き（盲目の瞽女をつかまらせて先導する役）の関谷ハナさん（弱視）の先導で道順に無駄なく一軒一軒の農家を巡る。玄関の戸を開け、裏口まで抜けるような大声

で、「ごめんなんしょ、ゴゼだがの、お、  
錢か米っこもらえんかのお」。奥から住

人が小さなお皿に米を入れてくると、手引きはすかさず『もう少しどうだね』と催促する。その駆け引きのうまいこと、『そうだね』といって奥へ引き返してもしかし、関係は美しい面だけではない。昔瞽女宿の主人だった人は次のように回想する。「子どもに対し、いいつけ悪いにつけ瞽女さんを引き合いに出した。悪いことをすると瞽女さんにくれる」といったり、食べ物を粗末にすると瞽女さんのように目が見えなくなるといわれたり、しかし瞽女さんが三味線を弾き長い唄を歌えるのは、どんなに辛い修業にも負けないで頑張ってきたからだ、瞽女さんを見習って強くなれといわれた」（同著）。また、内陸、信州のある年寄りの話では、昔は越後の人々は魚ばかり食べているから目を悪くしたと聞かされてい

高田瞽女杉本キクエさんらの旅のスケジュールによると、正月の高田の町での門付け、2月と8月の敷入り、5月の妙音講（妙音天すなわち弁財天を祭る瞽女たちの祭）のそれぞれの合間に幾日か帰省するほか、12月27日まで旅また旅の日々であった。日程は毎年一定で、訪れ

て、内陸では海の魚が手に入らないから、貧しさを忍ばせる言い草に瞽女の盲目が使われたという。このように、子どもたちに瞽女が利用された。世間は一方では瞽女に尊厳を感じ、一方では社会的な差別感をもって瞽女を見ていた。少なくとも終戦までは存続した日本の伝統社会では、人々は職業に、住む場所、出生、貧富、官民にと多くのことで多少とも差別感を持っていることはふつうであつた。

一方で瞽女は農村における民間信仰の対象であり、養蚕や農作物など農家の生業、安産や子育て、あるいは治病に係わることで、村民側から瞽女に頼る場面があった。また農村において神は生活の一部といえるくらいに近い存在であり、瞽女も神に近い存在であった。

### 伝統社会の崩壊

戦時中は農村も食糧難となつて、瞽女宿を引き受ける余裕もなくなつた。こういう状況下、「瞽女が来ても農家は戸を閉め切り、門付けをしても米をもらうどころか追い返され、近所の子どもたちが瞽女に石を投げるのを見、自分に投げられたような気がして子どもを叱つた」

(同著)。辛い話である。瞽女は自分の芸をもつて自活してきたといつても、頼るところがあつての自活である。伝統社会

という基盤がなければ瞽女稼業は成り立たない。終戦をもつて社会は一変し、高落、テレビの普及と娯楽の多様化、車社会の出現と、社会環境の変革は農村と瞽女の持ちつ持たれつの関係基盤を壊した。目の見えない瞽女の心は変わらなくとも、人々の心は変わつた。

瞽女が成り立つ社会がいいというわけではないが、次のような指摘も触れないではいられない。すなわち、高田瞽女の研究家市川信次氏に案内されて杉本キクエさんを訪問した水上勉は、「私は、都會のホテルなどにマッサージに来る女性たちがマニキュアをした若い娘さんであることを高田で思い出していた。いまや都會は盲目の按摩さんの職業さえ奪い取り、健康な眼明きの娘たちが按摩する時代となつた。昔の殿さまは盲目の女性に屋敷を与え、そこで遊芸人の鑑札を与え、温かい庇護をしてやつた。盲目の女たちにだけマッサージの権利を与え、眼明きの娘をこの業界から放逐する条例を発した県知事は日本のどこを探しても見

当たらない。ああ、ここにも失われようとしている日本の何かがある』。

室町時代以来、男の盲人については当道座(幕府が公認した盲人の自治組織で検校、別当、勾当、座頭の身分制度があつた)という芸能仲間の全国組織が公認され、明治4年まで存続したことが知られている。瞽女は全國組織ではなかつたが、江戸時代から盲人は自活できるよう保護が与えられ、幾つもの村入用帳に、毎年やってくる瞽女の宿泊費用を予算化していくことが記されている。しかし近年、教育制度や社会福祉制度の充実などから、娘を親方に預けて芸を仕込まれる親はいなくなつた。残つていた瞽女たちは、門付けができる環境がなくなつて按摩などに転業し、それでも残つた「最後の瞽女たち」も、杉本キクエさんは昭和39年、中静ミサオさんは昭和51年をもつて旅稼業を終えた。

瞽女唄のレコードや、後継者たちによる演奏を通じて瞽女唄を聴くことはできるが、瞽女本来の業態である旅巡回唄は聴くことができない。瞽女唄の場が現場からステージに「格上げ」され「隔離」され、瞽女唄はステージ芸・座敷芸の無形文化財となつてしまつた。

## 瞽女の姿と心

瞽女はその境遇から社会的には弱者であり、瞽女にイメージされるある種のもの哀しさを拭い去ることができない。しかしこのような見方は合っているだろうか。私は表現に迷うが、憐憫を受けるほど瞽女さんは弱くなかったと書かねばならない。先述した長岡瞽女の門付け光景で手引きの関谷ハナさんの描写があるが、そこに瞽女の「芯」の強さと、瞽女と村民とのつながりの強さを感じる。ハナさんの大声と応答は彼らのしたたかさを物語り、自分で生きていく意志と尊厳が漲っている。もう一皿追加して米を盛ってくれた主婦と瞽女の間には何のわだかまりも生じない。次の年もまた訪れ、迎えるであろう。郷土社会の風俗は自信に満ちていた。

門付け同行記や、昔の瞽女宿を訪ねて聴取した幾つかの話から見えてくる瞽女の姿を以下に記述する。「瞽女さんはいつも来ても着物にシミひとつない。瞽女宿で瞽女さんは目が不自由とは思えないほど身支度にも話にも品があり、一度聞いたことは決して忘れない。家の間取りなども決して間違えない。出された食事は

おいしいおいしいといって、茶碗の中を指でなぞって一粒も残さずきれいに食べた。人に対する人情に厚く、世話による家族の入学、結婚、出産、不幸などの義理を欠かすことなく、子どもたちに帳面や飴などの土産の心遣いをし、人の着物の生地を触って材質や模様を褒めた」（以上、おもに杉本キクエさんのこと）。「瞽女さんを泊めるようになって、瞽女さんの立ち居振る舞い、人に対する接し方を見て、長岡の瞽女さんの本当の素晴らしさがわかった。瞽女さんの人柄のよさ、私に無言で何かを教えてくれるものがある。孫たちの生きた教育になつている」（中静ミサオさんらのこと）。

このように彼らは独立自尊の気概に溢れ、人々から尊敬され、瞽女宿の農家では瞽女さんへの心配りを欠かさなかつた。（昔は）瞽女宿では雪道で冷たく濡れた瞽女さんの草履を囲炉裏で乾かし、朝、次の村へ発つ瞽女さんにおにぎりを持たせ、来年も待っているよとねぎらいの言葉をかけ、宿の子どもは峰まで荷物を背負って送る（駄賃に飴や小銭をもらうので、子どもたちは瞽女が来るのを心待ちにした）。

長岡瞽女との座談会の記録（昭和44年、村田潤三郎著）は人の世の機微に触

## 情報（唄）伝播の担い手としての瞽女

村々を巡る瞽女が厄介になる瞽女宿は、多くの場合富裕な地主層の農家で、地域社会における影響力を持つ家であ

れている。「いっぱいいた人はどうでも唄をやれとはいわない。お前さん方守の家が多くて大変だろねといつて百円くれる家もあるが、一円二円くれてもっと唄えという人もある。もうやめたのかという人があれば、五十円もらつたのでもっとやろうかというと、お前方の心で十分だという人もある。行くと、田の仕事をやめて来る人もある。鼻先にいてだまっている人もある。返事があつたので唄い始めると、いつまで待つても出てこない家もある。使えない錢をくれる家もあれば米をたくさん、そのうえ菓子をくれる家もある。荷物があればお前にちだと思っているから、留守でもおろしてくれ。夜になれば必ず帰ってくるからといっててくれる人もある。魚沼の衆は特別に親切です。葬式の日でも泊めてくれる……ありがとうございます」。人の心と瞽女の心を知るのに、これ以上の言葉はない。

る。そういう家はふだんから村人への面倒見がよく、近隣から信頼され、人々が寄り集まりやすい所であろう。門付けによつて予告された瞽女宿での夜の演芸には10人、20人と村人が集まつたという。瞽女が持ち来たらす情報も新しい唄も、このような効率的といえる拠点を通じて、容易に地域社会に流布された。高田瞽女杉本キクエさんらが巡った道筋、および長岡瞽女中静ミサオさんらが訪れた地点の記録がある。前者は高田（現上越市）を中心に東西・南方向へ、後者は長岡を中心に南北・西方向へと範囲が広がつている。思つたとおり重なりはない。前者はライン延長型であるのに対し後者はローラー作戦型で、その違いが面白い。いずれの場合も瞽女による伝播は次々と訪れて作る拠点を通じて行われ、私はこれを拠点型伝播と名付けた。

明治30年代長岡だけで300人、明治34年高田では89人と最盛期に近いと思われる数の瞽女がいた。ほかにも越後には刈羽（3番目に多く、全8組75人）、新潟（4番目、39人）、糸魚川、三条、飯田（4番目、39人）、柏崎、新津にも組があつた（鈴木昭英著）。門付け旅の一団が2組一緒で75人とすると少なめに見積もつて60団体（120組）がほぼ同時期にそれぞれの

仕分けで越後、信州、北関東、南東北へと巡るのである。みんなが同じ情報、唄を携えて旅するわけではないが、例えば長岡瞽女が毎年1回集まる妙音講（杉山著では5月13日）のあと共通の情報レベルになり、これを終えるとみな一斉にそぞれの地へ旅立つ。

歌謡の全国メディア化・大衆化は蓄音機とレコードの発明・普及によつて昭和初期に起つたが、それ以前の大正14年にはNHKの放送開始をもつて全国津々浦々に音声情報がいきわたるようになつていた。これにより伝播は同時期に遠隔地から出発することも可能となつた。これが飛び火型あるいはネット型伝播と名付ける。しかしこの伝播は商業ベースで進められるので、意図が入り仕掛けがなされ、有利と見れば見るほど伝播の促進が図られる。

テレビは昭和39年の東京オリンピックを機に急速に普及し、社会はテレビの映像の方が瞽女の伝統芸能よりも刺激的な世の中となつた。こののちも例外的に、一握りの瞽女たちによつて門付け稼業がなされていて、家庭における映像娯楽の普及で、昭和40年代半ばには瞽女宿での夜の演芸がなくなり、瞽女宿の機能はその家族と瞽女たちの世間話の場となつた。もはや瞽女は唄や情報伝播の担い手の役を失つた。

### 瞽女唄と演奏の特徴

レコードによると、高田瞽女と長岡瞽女とは前者の方が音楽的、抒情的、女性的で耳に心地よく、後者は地声をぶつけるような、男性的で土臭い感じがある。瞽女唄は師匠から受け継いだものであるので、土地土地の瞽女の伝統に基づく特徴もあるに違ひない（信用できるかは別としても、「瞽女式目」「瞽女縁起」には5つの流派があつたと記されている）。しかし私には、瞽女個人の声質や資質による違いの方が大きいのではないと思われた。これら瞽女の声は決して美しい声ではなく、日本民謡で特徴的なこぶしまわしを駆使するでもない。大げさな語りや唄いまわしもとくになく、聴かせどころの歌詞も淡々と歌われる。浪曲、義太夫、詩吟などで馴染みの、練り上げられ鍛え上げられた声ではない。2人、3人の声となるところも、ぴたーっと合わせるでもなくやや勝手である。三味線もとくに技巧を凝らすような演奏ではない。曲調は比較的単調で、長い「段物」ではほぼ同じ旋律が繰り返される。

瞽女の中には美声の持主もいたであろう（小林ハルさんは百歳となつても素晴らしい声だったという）。しかし瞽女は声が良かつたから、音感が優れていたから、瞽女になりたかったから瞽女になつたのではない。ふつうの子どもからの出发であり、音楽の才能と結びつけることは二義的なことである。

瞽女唄の構造と特徴に関して、大正期に流行った「口説節」の盆踊り唄「八木節」との共通性が述べられている。すなわち、同一の節の延々たる反復にその特徴がある（朝倉著）。ヨーロッパ中世における「吟遊詩人」は同じ節を繰り返しがて伝播して歩いたといふ。文字を知らない、使わない文化において記憶の助けとするには、決まった節回し、決まった歌詞を使うということであり、瞽女唄の演奏と共通したところがある。

一般に多くの伝統芸能では、家元から、家元を頂点とした幾つかの階層に位置する師匠を経て、弟子に対し厳格なる伝授がなされ、師匠といえども芸や作法の勝手な改変は許されない。一方瞽女唄の伝授は、長岡では家元に相当する瞽女屋敷を頂点として親方（師匠）たちが集まり、高田では親方たちのゆるい「座」（いわば組合）の形をとつて、それぞれの親

方と弟子の間で文字どおり口と耳と手ほどきにより芸の伝授がなされた。巡業の旅に出た先の瞽女宿では、杉本キクエさんのように才のある瞽女は村民との掛け合い即興で唄や文句を作ることがあったというが、一般には受け継いだ唄の改変はせず弟子に伝えられた。

瞽女は村々で民謡や流行り唄の伝播を結果的には担つていた。これは村民から飽きられないよう、新しい評判の唄があれば旅回りを終えて実家に帰る間にも、それを歌う宿場へ行つて習つてくるといふように、師匠となるのは自分の親方だけではない。昔から受け継がれている定番もの（「段物」「口説」）は別として、「雑歌」に分類される民謡、小唄、流行り唄などでは折々に新しいものが加わり、瞽女により得意ができたであろう。また瞽女組織は幾つもの地域にあり、同じ曲にしても土地土地で好まれる歌い方もある。こういった点で、雑歌の伝承は通常の伝統芸能の場合と異なつている。

瞽女唄の主要3分類のうち段物と口説の多くは母子、男女間の悲劇が語られる。これらは民話、伝説、史実をもとにした曲が多く、いわば段物は長編、口説は短編小説である。現在小説は目で読むだけとなり、声を出して読む・聴くといふ習慣が乏しくなつた。これらを演じる瞽女は、瞽女唄を通じて物語を伝承する物語は人々に共通の一般常識、一般教育を与え、物語に含まれる思想や情感は日本の伝統社会を作つてゐる共通基盤である。よく演じられた段物には「葛の葉子別れ」（三段）、「小栗判官」（四段）、「俊徳丸」（七段）、「八百屋お七」（五段）、「佐倉宗五郎」（十段）などがあり（五十嵐著）、1段に30分かかる。口説は長くて2段、ふつうは1段程度である。雑歌の中には各種門付唄、民謡、かけ言葉や台詞の入る唄、艶もの、ご愛嬌、当世もの、下ネタものまで含め何でもあります。瞽女宿での夜の演芸では女子どもが引揚げたあとは男どもの宴会になるので、卑猥な唄も入つてくる。しかし、子どものときから盲目の世界で厳しい修業を重ねてきて遊びも恋愛も許されなかつた瞽女には似つかわしいとは思えず、これは人によるであろう。

生活がかかり客のリクエストに応じられるよう、目の不自由な中で多くの唄を仕入れ覚えたことを思うと、その大変さはいかばかりであつたろう。杉本キクエさんは段物を50段以上、口説を50曲、流り唄を数知れず記憶していたといふ

(杉山著)、小林ハルさんは500曲近く記憶していたという(八木達也著)。

### 越後瞽女の最後の人たち

瞽女は東北、北海道を除いて日本全国にその仲間組織が点在した。そういう中で越後の瞽女は最も人数が多く組織が大きかった。しかし明治時代の最盛期ののち、戦時と終戦時をさかに瞽女は激減した。最後まで残って活動したのは次の人たちで、その中で門付け巡業を最後まで続けたのは長岡の組の瞽女である。近年瞽女の研究者たちが直接話を聞くことができた瞽女は彼らであり、彼らと重なる少し前の人たちである。最後の瞽女といわれる次の人たちの出自と境遇を通じて、瞽女についてより知ることができよう。

**高田瞽女** 杉本キクエさん一行3名は高田市内の杉本家に同居し、昭和39年まで上越、信州を旅した。

**杉本キクエ** 明治31年中頸城郡諏訪村(現上越市)に自作農の長女として生まれる。6歳のとき麻疹の熱がもとで失明。7歳になって父親から、将来の自活のため按摩になるか瞽女になるかといわれ、瞽女を選び、親方杉本マ

セに養子縁組した。マセは天然痘で片目を潰していた。昭和7年マセ急死で家督を継ぐ。同39年まで旅巡業を行っていたが、その後は各地に呼ばれて演奏活動をした。同45年無形文化財指定、同48年黄綬褒章受章。LPレコード発売。同58年死去、86歳。

**五十嵐(杉本)シズ** 大正5年中頸城郡中郷村に生まれ、生まれたときから目が不自由、2歳で失明。実母・繼母を亡くし、杉本家から養女に欲しいといわれ、7歳のときマセに弟子入り。親方死後キクエの養女となり、キクエの亡くなつた1年後に次のコトミとともに盲老人ホーム「胎内やすらぎの家」に入居。

**難波コトミ** 大正4年東頸城郡牧村に生まれる。弱視。昭和4年15歳のとき手引きとしてマセ方に同居。身内の反対があつて実家に連れ戻されたが、瞽女の世界が好きでまた戻ってきた。旅のときだけ一緒になつて中越地方を巡った。3名になつてからは昭和51年秋まで、2名になつてからは同52年春まで旅をつづけた。

**加藤イサ** 6歳で失明。沼田組の師匠につき、数え11歳で初旅。実家に

帰つたとき母親に取りすがつて泣いた。「ごぜんボ、ごぜんボ」とさげすまされた悲しさ。昭和42年まで下記3名とともに旅をした。同49年死去。

**金子セキ** 大正元年三島郡越路町に生まれ、3歳で失明。4歳で堀リテに弟子入りし、14歳で初旅。親方から教えたもらった唄の一つは「♪岡崎女郎衆はよい女郎衆♪」であった。昭和52年「胎内やすらぎの家」に入居。

**中静ミサオ** 大正元年三島郡越路町に男4人、女5人の三女として生まれる。4歳のとき重い麻疹がもとで失明、5歳のとき山本マスに弟子入り(あるいは、11歳のとき岩田組に入門)。15歳のとき金子セキと初旅。昭和52年セキのあとを追つて同じ盲老人ホームに入居。

**関谷ハナ** 明治41年三島郡越路町に生まれる。金子セキとは親類で、昭和43年から上の3名の手引きとして旅した。弱視。晩年は老人ホーム「こじいの里」に入居。

**柏崎瞽女(あるいは苅羽瞽女)**

**伊平タケ** 明治19年苅羽郡苅羽村に生まれる。5歳で失明、柏崎の野中組の師匠小林わかに弟子入り、9歳から門付けを始め22歳で独立、夏は苅羽、

魚沼、冬は上州を旅した。大正元年27歳のとき鍼灸師と結婚して伊平姓となり按摩を開業、旅巡回業はせず座敷瞽女となつた。昭和25年東京に、同42年東松山市に転居。同48年黄綬褒章受章。同49、50年東京各地でリサイタル、LP2枚組「しかたなしの極楽」発売、テレビで70年前に世話になつた人を訪問する番組に出演。昭和52年92歳で死去。

### 三条瞽女

小林ハル 明治33年南蒲原郡井栗村で裕福な小作農の家に生まれる。生後100日でそこひ（白内障）になり2歳で父親を失い、3歳で失明。4歳で三条組の親方樋口フジに弟子入りし、8歳で旅に出る。11歳のとき母親が死去、15歳のとき親方の都合で辞めさせられ、長岡系の五千石組に弟子入り。19歳のとき目上の妬みを受け、子どもが生めない身体になつてしまつた。22歳のとき親方が急死。長岡瞽女を離たあと独自に仲間と連れ立つて旅し、別の親方へ弟子入り。35歳のとき四郎丸瞽女の土田ミス（26歳）を「寄り弟子」とし、後年ミスと旅した。大正末、巡回業を終えた。昭和53年無形文化財指定、同54年黄綬褒章受章。73歳で

養護老人ホームに入居、77歳のとき「胎内やすらぎの家」に移つた。のちに入居した五十嵐シズ、難波コトミの親代わりとなつた。昭和56年皇太子・同妃殿下に瞽女唄「葛の葉子別れ」披露、平成12年三条市特別表彰・瞽女顕彰碑除幕。同17年105歳で死去。

なお“男の瞽女”といわれる人がいる。

「風雪流れ旅」（星野哲郎詞・船村徹曲・北島三郎歌）のモデルといわれる高橋竹山で、2歳になる前に麻疹をこじらせ失明、14歳で盲目の門付け芸人に弟子入りして三味線を習い、2年後独立して北海道を中心門付けして歩いた。津軽三味線の原点を作つた。

萱森直子「胎内やすらぎの家」を

訪問して小林ハル、五十嵐シズを知つてそれから長岡、高田の瞽女唄を習つた（NHK新日本紀行）。小林ハ

ルゆかりの地、出湯温泉（阿賀野市）で瞽女唄コンサートを催している。こ

の地でハルは61歳ころから、手引きの養女操、弟子桜井ハルと3人で13年間暮らした。

瞽女に対する関心から幾つかの書物を

ひもといいていくうちに、瞽女に対して表

現される放浪、漂泊あるいは旅芸人など

という言い方は、本当の瞽女の姿を見誤

らせているのではないかという疑問を感じ

を訊かれて、「どうですかっていわれてもねー、こんだけの練習では無理だがね……」と答えてから10年、2人は共演するようになる。

金子まゆ 新潟市白山公園内「燕喜館」（一番堀通町）において「らっくり瞽女の会」主宰し、かつて瞽女が

瞽女宿で演じたように段物を演じてい

る。参加費は「ざる」をまわして気持

ちをもらうという。文集『私の瞽女宿』発刊（2004年9月 第1号）。

### 瞽女唄の継承者たち

最後の瞽女たちが引退して老人ホームに入つてしまつたあと、彼らに教えを乞うて瞽女唄を習つた人たちがいる。

竹下玲子 声楽家。昭和52年新宿の

ホールの「瞽女文学の夕べ」に出演し

た小林ハルの、マイクなしで響いてくる声を聴き、自分も身につけたいと思つた。80歳近いハルを「胎内やすらぎの家」に訪ね、2か月に1度、10日ずつ通つて習つた。ハルは竹下のこと

### おわりに

瞽女に対する関心から幾つかの書物をひもといいていくうちに、瞽女に対して表現される放浪、漂泊あるいは旅芸人などという言い方は、本当の瞽女の姿を見誤らせてているのではないかという疑問を感じ

じた。確かにそれは瞽女の一面を表し瞽女業の特徴であるかもしれないが、それにより憐れみを誘うイメージがつくられるしたらそれは失礼であるだけでなく本質を見誤る。

3歳で光を失い4歳で親方につき8歳から旅して数万キロの道程を歩き、73歳で老人ホームに入り105歳で人生を全うした三条瞽女小林ハルさんは、「次の世には虫になつてもええから目が見えるようになっておりたい」といったとう。ハルさんの回想には次のようなものもある。「9歳のとき親方に連れられての初旅で、初めて泊まる村での宿探しは末弟子ハルの役目で、親方の宿は取れても自分の宿は5軒10軒回つても断られることもあつた。瞽女宿での食事は、親方からおかげは遠慮して食べるといわれた。後年、長岡のいろいろな瞽女と旅を組んだが、いい人と組めば祭り、悪い人と組めば修業、難儀なときにやるのがほんとうの仕事」(八木著)。これらの言葉から、それまでの悲しみ、苦しみ、数々の試練を私たちは想像し、それらを乗り超えてきたことを知る。ハルさん的心と同じくすることはできないが、ハルさんは目が見えるもう一つの世界でも生きてみたいといい、生きることに強い気概を

感じる言葉である。

高田瞽女五十嵐シズさんの思い出がある。「戦中は門付けしても米をくれる家もなく泊めてくれる家もなかつた。母ちゃん(親方の杉本キクエさんのこと)は、商売より夏のうちに冬炭を買っておかなればと新井の西野谷に汽車で行き、帰りはお巡りさんに捕まると困るので歩いたが、暑いし重たいしで死ぬほど切なかつた。捨てて帰ろうといつたら、頑張って持つて帰つたら冬になればいかつたと思えるという。その冬は格別に寒かっただ。近所の人が炭を借りにくくとすぐ貸してやるので心配して、苦労して持つて帰つたのになくなつたら困るといふと、こんなご時世は互いに助け合わなければだめだ、おらたちは人さまのお陰で生きてこれたんだ、こんなときでなければ何も人さまのためになれないだろうといわれた。母ちゃんは優しい人だった」(杉山著)。

すでに半世紀近くも前に、「最後の瞽女」は旅稼業を終え、瞽女唄はステージ唄となつた。残されたものは瞽女唄だけであろうか。社会で生きていくための強くしたたかな瞽女さん、律儀で人情の機微に長けた瞽女さん、信心深く人とつながりを大切にする瞽女さん、自分で生

### おもな参考資料

朝倉喬司『流行り唄の誕生』

五十嵐富夫『瞽女—旅芸人の記録—』

杉山幸子『瞽女さん 高田瞽女の心を求めて』

村田潤三郎『瞽女さは消えた 日本最

後のごぜ旅日記』

NHK新日本紀行「瞽女唄が聞こえる(新潟県上越地方)」(2008年2月23日再放送)

鈴木昭英『瞽女 信仰と芸能』

八木達也、エッセイ(WEB情報)

NHK新日本紀行「瞽女唄が聞こえる(新潟県上越地方)」(2008年2月23日再放送)

3枚組レコード「越後の瞽女唄」、監修者藤真一・構成間章(CBS・ソニー)

さくらびと

# 松前の血脉桜

細川呉港（会員）



松前城と桜と堀

桜満開の函館公園の公園管理事務所の学芸員が、「桜なら、ぜひ松前城に」という。

松前は、北海道最南端。特急で函館から木古内（きこない）まで60分、さらにバスに乗り換えて1時間30分。往復で5時間はかかる。日帰りはちょっとつきつい距離である。

函館だってめったに来ないのでから、松前となるとおそらくこれからもなかなか行くチャンスはなかろうと思い、思い切って行くことにした。

松前城の桜は前から噂は聞いていた。

折から早咲きの八重の桜が、枝もたわわに城中、咲いていた。ピンクの色も美しい。本土でもあまり見ない八重である。

この桜は「南殿（なでん）」といい、本土にも南殿という名前のあるが、

同じかどうかわからないと。専門家が誰も、比較同定した人がいないのかもしれない。城の入り口からこの南殿の桜が一杯で、そこだけを見ると松前城は「南殿の城」のようにも思える（平安京の紫宸殿から続く京都御所の前にある「左近の桜」も南殿の桜という）。

この南殿の桜を城の中だけでなく、小さな城下町ではあったが松前のあちこちに植えたのが、鎌倉兼助であった。明治11年の生まれ。鎌倉家はもともと山形県の大工の棟梁であったが、松前城築城のとき先代が松前に来てそのまま居ついた。鎌倉兼助は私塾に通い、松城学校を卒業。もともとは教師志望であったという。卒業後松前郡の農会の指導員になり、明治41年福山町（後の松前町）の書記になった。つまり町の職員である。

兼助はちょうど明治41年、函館に行つて函館公園の桜を見た。（以前に私が書いた函館公園の謂れにある）函館公園は多くの人たちの協力のもとに明治12年に完成しているから、それからほぼ30年、植えられた桜も大きく育っていたことだろう。函館公園は桜で満開だった。たくさんの人たちが見物に集まっていた。松前の人々から来た兼助は賑やかな函館公園をうらやましく思った。そのころ松前

は、ニシンの水揚げが極端に少なくなったり、不況を呈していた。また北海道の入り口であった松前港が、函館にとつて替わられてから、もともとは城下町でありますながら、人も少くなり町は寂れる一方だった。なんとかしなくては――。

松前に帰った兼助は、その年から桜の接ぎ木を始めた。まず南殿であった。南殿というのは、松前にとつては馴染みある、またいわれのある桜であった。お城の地続きにある光善寺の境内に、大きな南殿の木があった。別名を『血脉桜(けみやくざくら)』という。

この血脉桜については町には古くから伝わる伝説があった。

昔々、といつても江戸時代のことであろう。この町に柳本伝八という鍛冶屋がいた。この鍛冶屋が18歳になる静枝といふ娘を連れて上方見物に行つたという。親が亡くなつて高野山に行つたという説もあるからどちらが本当か分からぬ。そのとき吉野で知り合つた尼さんが、静枝に桜の苗木をくれたという。

この苗木をはるばる松前まで持つて帰つた。当時のことである。上方から松前まで道中は大変だったと思われる。あるいは北前船で敦賀から日本海を北に行つたのかもしれない。

とにかくその苗木を上方から松前まで持つて帰り、菩提寺であつた光善寺に植えた。

苗木は光善寺で大きくなり、見事な桜を咲かせるようになつた。月日は移り、それから60年くらいたつた。その苗を植えた静枝も亡くなつていて、宝暦年間というから9代将軍徳川家重の時代に、光善寺は本堂を建て替えることになり、この桜をどうしても切らなければならなくなつたと――。

明日はいよいよ桜を切るという日の夜遅く、住職の穩誉上人の枕元にひとりの女性が現れて言うには、「私は明日にも死ぬ身の者です。どうか『血脉』を書いてください」。

驚いたのは穩誉上人、すでにもう床に入つて寝るところだった。上人はもう眠いので明日にしてくれという。しかし女性はどうしても今夜でないと間に合わないというのだ。仕方なく上人は起き上がり、墨を磨つて血脉を書いた。

血脉というのは本来、仏教で師から弟子へ仏法を正しく伝えることを師資相承というが、この師資相承の系譜、あるいは系図のことを血脉という。早い話が、お釈迦さまから次々に弟子に伝わる系図である。この系図を、本来は法職にない

一般の人間にも、あの世に行つて修行しないと言う意味で持たせるようになつたのかもしれない。法然も死者を送る所である。

この血脉の書き付けを、お葬式のとき掲げて、お経をあげ、骨と一緒に埋葬する。この地方では、お通夜のときにはすでにお骨になつていて、お葬式のときにこの血脉が必要なのだと。松前あたりだけの風習かどうかは知らない。現在の光善寺の住職、松浦真亨さんによると、本来の血脉が、だんだん転化して、この血脉をもつて極楽に行くようにといふ死者のお守りのようになつたとも。

私の実家は広島で、安芸門徒、浄土真宗だが、こうした話は聞いたことがない。真宗は亡くなつたときから淨土に行くが、浄土宗は淨土に行つてから修行をすることになつていて、そういう風習が生まれたのかもしれない。

ついでに言うと、ずいぶん前の話だが、戦前、中国のお寺でも、死んだ人に、引導というか、その人の生涯を書いた履歴のようなものを渡すらしい。その書き付けを持って閻魔大王の前に行き、その人の生涯の生き方がよかつたか悪かつたか、査定を受けて、そこで天国に行くか、地

獄に行くか決めるのだという。

そこでお寺では、いちいちそれを死者が出るたびに全部書くのは面倒なので、履歴の各項目の枠を書いたものを、木版にしてあるものがある。つまり履歴書の紙が印刷されていると思えばいい。現在でいえば、小学校、中学校と学校名を入れる枠があり、また賞罰などを書き込む枠があるようなんだ。この古い木版を、私は昔中国の骨董屋から買ってきた覚えがある。

とにかく無理やり、血脉を書かされた光善寺の僧が、翌朝起きると不思議なことに、今日いよいよ伐採するという境内の桜の枝に、何やら白い書き付けが結ばれている。近づいてみると、それは紛れもない、自分が昨晚、枕元に現れた女性に書いてやった血脉そのものであつた。住職は驚いた。

さては昨日、やってきた女性はこの桜の精だったのではないか（あるいはとつぐの昔に亡くなつた父親と上方に行つた静枝の靈だという説もある）。とにかく桜の精は、自分が今日、切られるのを知つていて、それで前の晩に血脉をもらつに来た——。住職はそう考えて、なんともこの木は切らないでおこうと決め、本堂の建て替えを諦め、代わりに山



松前のすべての「南殿」の原木、光善寺の「血脉桜」。浅利政俊先生が、根を掘り起こしたりして保存、再生を手掛けている

さて、話をもとに戻すと、明治41年に松前町の役場に勤めるようになった鎌倉兼助が、函館公園の桜を見た後、松前を復興を願つて桜を増やそうとしたとき、この見事な花を咲かせるピンクの八重の血脉桜の枝をとつて、挿し木にしたのは当然であった。台木はソメイヨシノである。

兼助はもくもくと接ぎ木をして、松前に桜を増やしていく。接ぎ木するだけでなく、新しく桜を植えるところを掘り起こし、また土を入れなければならぬが、お城に続く今は松前公園と呼ばれている地域は広大な面積で、もともとは笹藪だつたりしてこれも掘り起こすのは大変だったという。そのうち兼助は町の収入役になり4期勤め、さらに助役になって1期勤めた。勤務をしながらの桜の苗木づくりである。さまざまな種類の苗木を挿し木した。北海道にもともとあるオヤマザクラのほか、関山、普賢象、それにソメイヨシノといったニワザクラも植えていった。私はこれまでにも多くの明治生まれの人々の話を聞いていたが、明治生まれの男の執念はすごい。けつして高学歴ではないが、何かをしようといふ一念を持ち続けることにおいては、その後の人たちが見習わなければいけない

これが現在光善寺にある、見事な桜である。人々はいつのころからこの桜を血脉桜と呼ぶようになったという。血脈の話だ。

門を作つたそうである。今から380年くらい前の話で、この地方の伝説である。光善寺の現在の住職、松浦真亨さん

私が今回訪ねたときちょうどこの血脉桜が満開であった。高さはそれほど高くないが、花を一杯につけた枝の広がりが見事な桜である。

ことがたくさんある。

城内の入り口にあるひときわ大きなソメイヨシノは、現在、桜前線の北海道上陸の基準となる「標本木」となっている。桜はもともと日本に自生している桜（原生種）以外に、自然交配、あるいは人工的に交配された園芸種も多く、花の立派な八重の桜はみなそうである。これらを総称して「里桜」という。オオシマザクラと掛け合わされた桜が多い。したがって、咲く時期はまちまち。全国の桜の名所はそのほとんどがソメイヨシノ



松前城。右に鎌倉兼助翁（明治11年生まれ）の顕彰碑が建っている。大正から昭和にかけ、町の助役などを歴任し、50年にわたり「南殿」の桜を城や、町中に植えた。「桜の松前」の基礎を作った人

「早咲き」には、南殿、染井吉野、白雪姫。「中咲き」には、糸括（イトククリ）、雨宿（アマヤドリ）、松月（ショウゲツ）。「遅咲き」には、普賢象（フゲンゾウ）、松前白雪、関山（カンザン）などがある。見物客は、昨年は「早咲き」を見たから、今年は「中咲き」を見に行こう、という言い方をする。見方によつては1か半月の間に3度見に行く必要がある。

鎌倉兼助に続いて松前に桜を増やした

城内の入り口にあるひときわ大きなソメイヨシノは、現在、桜前線の北海道上陸の基準となる「標本木」となっている。桜はもともと日本に自生している桜（原生種）以外に、自然交配、あるいは人工的に交配された園芸種も多く、花の立派な八重の桜はみなそうである。これらを総称して「里桜」という。オオシマザ克拉と掛け合わされた桜が多い。したがって、咲く時期はまちまち。全国の桜の名所はそのほとんどがソメイヨシノ

だが、この松前ではたくさんの種類の桜が植わっている。とくに後に鎌倉兼助のあとを継いで、松前の桜を増やしたのは浅利政俊である。私の書いた前文「北に帰った人たちの残していくもの」（『善隣』2019年12月号）でも紹介したが、浅利先生については後述する。とにかく、松前の桜は種類が多く、「早咲き、中咲き、遅咲き」とあって、それぞれ咲く時期が違うから、それに合わせて見に行かなければならぬ。逆に言えば、4月下旬から5月中旬まで、いつ行つても桜が見れるというわけである。現在松前には、250種、1万本近くの桜があるというからそのうちどれを見に行くかを決めなければならない。

月月下旬から5月中旬まで、いつ行つても桜が見れるというわけである。現在松前には、250種、1万本近くの桜があるというからそのうちどれを見に行くかを決めなければならない。

月月下旬から5月中旬まで、いつ行つても桜が見れるというわけである。現在松前には、250種、1万本近くの桜があるというからそのうちどれを見に行くかを決めなければならない。

「早咲き」には、南殿、染井吉野、白雪姫。「中咲き」には、糸括（イトククリ）、雨宿（アマヤドリ）、松月（ショウゲツ）。「遅咲き」には、普賢象（フゲンゾウ）、松前白雪、関山（カンザン）などがある。見物客は、昨年は「早咲き」を見たから、今年は「中咲き」を見に行こう、という言い方をする。見方によつては1か半月の間に3度見に行く必要がある。

のは、浅利政俊である。子どものころは函館の北、七飯（ななえ）町にいた。昭和6年（1931）生まれ。小学校時代の朝鮮の青年との話はすでに述べたところだ。

浅利家はもともと祖父の時代に醤油の醸造業を生業にしていて、おそらく裕福な家だったのであろう。ところがあるとき火事があり、すべて焼けてしまった。そのとき馬も3頭亡くなってしまったという。

浅利家は、祖父の時代に立派な庭を持つていた。その庭になんと関山と泰山府君（タイザンフクン）という桜があったという。とくに関山は直径40センチにもなる大きなものだった。その時代に、北海道の田舎にこうした里桜（園芸種）があったのは極めて珍しいと思われる。政俊少年はすでにそのころから桜の洗礼を受けていたのだ。それに母親が、兄と

政俊に畠一枚ほどの畑を与え、ここで自分の好きな花を植えて育てなさいと——。そこで政俊は畑に、矢車草やサクラソウ、それに水仙などを植えた。また馬糞を集めきては畑に入れたとも。子どものころから百姓仕事が身についていたのだ。

昭和20年、14歳で終戦。その後地元の大野農業高校へ。さらに函館にあった北海道第二師範学校へ進み、理科の教員になるつもりだった。ところがもともと弱かった心臓に加え、胸の疾患も加わって2年間、休学を余儀なくされる。その間に学校は、北海道学芸大学函館分校に改編。政俊はそこに復学して当時79歳の植物学者、菅原繁蔵先生に会う。この先生が浅利をして、将来、桜の道に進むことになる大きなアドバイスをくれることになる。

菅原繁蔵（明治9年生まれ）は、根っからの植物研究家。独学で小学校教員の免許をとり、生涯植物採集をした名誉欲のない人で、膨大な植物標本を後世に残した。樺太の植物採取をも行い『樺太植物誌』を表す。

その大先生が政俊の学校で植物分類学を教えたのだ。菅原先生は政俊にさまざまな啓示を与えた。「常に自分の足で自然の謎解きをすること——」などなど。

政俊が卒業して松前の小学校に新卒として就任するとき、菅原先生は有名な桜学者、三好学の『桜花図譜』という立派な桜図鑑を2冊貸してくれた。「じっくり腰を据えて桜を研究しなさいと」。後にそれは政俊のものとなるのだが、いまでもその本は政俊の宝である。浅利先生にとって菅原繁蔵は生涯桜の研究をする上での、指針になった人だ。

何かをなした人には必ず、その人に啓示を与えた人がいるものである。浅利政俊と恩師、菅原繁蔵もそういった関係の師弟である。

昭和28年（1953）、浅利は松前清部小学校、松城小学校と勤務するが、町で「桜見本園」をつくり、火事で消失した松前城に桜を植え、復興の象徴にしようという話が起る。桜による町おこしである。浅利は農業改良普及員の田中淳さんと一緒に桜見本園を作る計画を練つた。

浅利は全国各地からいろいろな種類の桜を集め、桜はどんどん増えていった。そのうちの1つが、静岡県三島の国立遺伝学研究所の竹中要である。

竹中要博士は遺伝学会の大御所で、昭和30年代から40年代にかけて、細胞遺伝

学の研究素材にたくさんの桜を集め、3万坪といわれる遺伝学研究所の周囲には255種の桜を植えた。いまも健在である。私も4度ほど行つたが、遺伝研では、三島市と協力して年に1日だけ、園内を一般に開放している。あまりにもたくさんの種類があるのでとても一度には覚えられないくらい、見事なものである。とくに竹中はソメイヨシノの起源の解明の研究を行つた。さまざまな形で、ソメイヨシノとエドヒガンの交配をし、形態的な特性の観察を行つた。それは現在行われているゲノム分析技術をもちいた遺伝子レベルの確認と大差ないくらい正確だつた。またソメイヨシノの実生から、吉祥寺、咲耶姫（サクヤヒメ）、染井匂、修善寺桜、三島桜、衣通姫（ソトオリヒメ）、などの品種をつくり、なかでも有名なのは天城吉野である。

浅利政俊は竹中要からさまざまな指導を受け、桜の苗を分けてもらつた。そして松前の桜見本園に植えた。竹中は、字のごとく竹を割つたような性格で、結構、気性の激しい人だったが、人情味のある人だったという。

掛け合わせによる品種改良は、1代目は必ず優性な形質が出てくること。萼頭や葉柄、あるいは葉っぱに毛があるとか、

浅利は後に自分でやってみて、何が優性なのか、何が劣性なのかを自分で確かめた。

よく知られるソメイヨシノは、オオシマザクラとエドヒガンの交配種だが、現在のDNAの検査によると、エドヒガン50パーセント、オオシマザクラ30パーセント、ヤマザクラ10パーセント、その他10パーセントという数字がでているそうである。

桜の苗木は、大阪の造幣局からも貰つた。有名な、西の桜守、笹部新太郎の植えた桜である。笹部は生まれたときから大きな財産を引き継ぎ、生涯あまり働くことなく、桜の増殖一筋、多くの桜の苗木をたくさん的人に配ったのだけれど、それだけに、桜に対する思いも深く、独自の思想を持っていた。拙著『桜旅』のところでも書いたが、笹部の残した言葉の中で一番すばらしいものは次のようにある。

「おおよそ桜を愛でる人の心は、数字では表せられない。桜を愛でない人は、愛でる人の気持ちはまったく分からぬ（河津桜祭が1年目は来客が3千人だったものが、8年目に百万人に達したといえ、すぐに反応する人も、花を愛する

人の気持ちは深さは理解できないのだ）。ものを判断する上で、数字を使うのは便利だけれど、物差しで計れないものには効果はない。物差しに替わるのは、広くもののよさを識る訓練の集積である『人』である。『人の教養』である。これを得るために、絵画といわず、音楽といわず、建築といわず、（焼き物といわず）およそ、ものの良さを認められるものへの観察を続けなくてはならない。それによって磨き上げられた身についた『タシナミ』というもののみが、ものの優劣を決めることができる」と。

けだし、名言である。ものの価値は量ではなく質である。唯物史観の対局にあるものだろう。

笹部は、明治20年生まれ、昭和53年に91歳で亡くなっているが、浅利政俊は、笹部との生前での面会は叶わなかつたといふ。

今年（2020年）は、浅利が血脉桜を見守つて69年になる。人間の一生に及ぶ時間である。2017年に私が見た満開の血脉桜も、本当に元気よく、枝を四方に伸ばし、まわりを囲った柵を越えんばかりに枝を伸ばしていた。

浅利のやつた仕事はそれだけではない。

いよいよ防護柵を作つたりした。その後たびたび、根頭がんしゅ病、コスカシバ発生、幹の空洞化、胴枯病などさまざまな問題が起つた。それらにひとつひとつ向き合いながら、一から勉強して対処していった。

昭和61年（1986）からは、幹の上から「不定根」を地上に誘導し、木そのものの再生をはかつたり、また根のまわりの土を活性化するために、落ち葉を敷き、さらにその上から松前城の瓦を伏せて並べ、腐葉土をつくりミミズの発生を促して、ミミズによつて土壤を耕したりした。そうしないと、シャベルで土を耕すと、根を切つてしまつからである。また観光客が押し寄せてても、根のまわりを直接押さえつけないような板張りの廊下も作つた。もちろんひとりではないが、みんな浅利自らシャベルを持ってやつたのである。

浅利はまた、小学校に赴任した昭和53年から光善寺の血脉桜の面倒を見ていく。江戸時代から明治36年まで3度の大火に見舞われた寺は、そのときの焼け焦げが血脉桜に残つていたという。堆肥を施し、また花見客が桜の根本に近寄らな

松前城の中の「桜見本園」のために全国から桜を集める一方、彼は教え子の小学

校の児童たちと桜の実を拾つたのである。

八重咲きなどの多くの里桜は、基本的にほんとんど実を結ばない。花はたくさん咲いても、1本の木に、ほんの数個しか実がならない場合も多い。彼は小学生たちと一緒に、この実を探り、あ

るいは拾つたのである。長い竹竿の先端をふたつに割り、サクランボを挟んで採つた。

「種を蒔いて、桜を増やそう——」百姓仕事を子どものときからやつてきた浅利が当然のごとく考えた方法である。しかし実生から育てると芽が出て、苗が育ち、大きくなつて花を咲かせるようになるには10年はかかる。気の長い話だ。しかし、浅利は子どもたちとこれを繰り返したのである。しかも蒔いた種が全部芽を出すとは限らない。全部で千粒蒔いて、数十個というときもあった。

すでにご存じの方も多いと思うが、桜は「自家受精」をしないのである。自分の木の花の雄蕊が、雌蕊について授精しない、実がならないのである。だから1本の木に、たとえ何個であっても、実がなつたということは、それは他の桜の木の花粉がついて授精し、実がなつたと

いうことなのだ。したがつて、実を植えると、それは親そのものの木と同じではない。他の桜の木との交配によってできた子どもなのだ。つまり混血児、雑種ということになる。つまり新しい桜だ。このようにして松前の桜畠には新種の桜がたくさん生まれた。その数ざつと百種もある。

浅利は10年以上かけて、新しい桜の形質を見極め、新種の名前をつけた。とにかく一般的には実がならない南殿のようないくつかの名前があった。このようにしてできた最初の桜が、昭和34年の「綾錦（アヤニシキ）」である。南殿の実生から生まれたものだ。蕾は紅色、開花すると内側は薄い紅色、外は紅色である。花の直径は5センチは越す。八重咲きで花弁は20枚から25枚である。みごとな桜だ。また松前の毬山紅八重桜の実生からできた「琴糸桜」（昭和34年）。同じく松前の法幢寺にあつた名前の分からぬ八重桜の実生からできた「幸福」（昭和35年）などなど。浅利はまた、さまざまな掛け合わせも試みた。「染井吉野」と「大山桜」を掛け合わせた「照桜」（昭和35年）。「日暮」と「福禄寿」の掛け合わせから選抜した「花染衣」（昭和36年）。「白雪姫」は「染井吉

野」と「南殿」の交配（昭和36年）。「静香」は「天の川」と「雨宿」の交配（昭和37年）。「花笠」は福禄寿の実生から選抜したもの（昭和38年）。「紅華」は「糸括」と里桜の交配（昭和40年）など。昭和30年代から40年代末にかけて、浅利は次々に松前から新品種を発表している。全部で百種を越えた。

浅利政俊はこのようにしてさまざまに仕事をしてきたが、私が思うには、彼がやつた仕事の中で一番すばらしいと思うのは、最初は小学生の動員。桜の木の下で、みんなで実を探し、種をまいて芽が出土した苗を育てる。水をまく。そうすることで、子どもたちが、小さいときから桜に、あるいは植物に関心を示すようになったこと。また、その子どもたちが大きくなつても、いつまでも自分たちの関わった桜に愛着を持つてくれている。そしてそのまた子どもにも、花や木を愛する気持ちを教えてくれていることである。不幸にして、こうした教育を受けなかつた人は、桜の美しさも、植物の生命の尊さも知らないままに大人になり、ともすれば経済優先の価値観の中で、平氣で木を切つたりするのだ。

今、全国の公園や名園の手入れを、きわめて安い値段で土建業者が落札している。誰でもが落札できるようになつたことで、今までやつていた庭園業者や、専門の庭師などが落札できないのだ。土建業者は、木の手入れは素人である。アルバイトを使う。そしてさらに「台風が来たとき倒木の心配がある」「木が大きくなりすぎると江戸の庭園の風景を壊す」などという名目で、大木を切つて、中国



長年にわたって、小学校の先生をしながら松前に桜を植え、子どもたちに桜を愛する気持ちを育ててきた浅利政俊先生。実生から100種類以上の桜の品種をつくったことでも有名である。新品種「紅豊」は今や全国に植えられている。各地から、さまざまな桜を集めて城内に桜見本園もつくった。七飯町の自宅の桜畠にて。郷土史家でもある

やあるいは家具屋に高い値段で売っている。そういうことに地方の行政の公園や庭園の担当者はまったく気がつかないということである。悪事、千里を走る——のたとえどおり、土建業者の間では、もうずいぶん前からそういった「商売の仕方」の情報が全国の同業者の間で流れているのだ。「安くオトして（落札して）大木を切つて儲ける」あるいはまだ切る必要のない「木を切る」という仕事を「ツクリ」のである。タメにする仕事である。

松前では、現在、「松前花の会」があり、その会を中心にして、それぞれの職場や、あるいは地域、小学生、中学生、婦人会、老人会に働きかけて、桜の保全に協力するグループがいくつもある。浅利先生の啓蒙を受けた子どもたちが大きくなつて、またその子どもたちが参加している。

桜の寿命は人間の寿命よりもはるかに長い。桜や木を大切にしていく気持ちや心

を持った人間の、意志をつないでいかなければ、桜は美しくあり続けることはできない。特に自然交配や人間の手によつて作られた「里桜」は寿命が比較的短かっただり、病虫害に弱いところがある。こうした世代を超えて心を伝えていくことがどんなに大切なことかを、松前の桜は教えてくれるのである。お城に行けば、そういう町民みんなの心の籠もつた美しい桜があるのである。町全体が桜を愛する、桜を守る人たちなのだ。

拙著前作『桜旅』でも紹介したが、芭蕉が49歳のとき、故郷の伊賀の里、「予野の庄」に帰り、桜がきれいなのを見て一句詠んだ。「一里（ひとさと）はみな花守の子孫かや」（猿蓑）。予野の庄は平安中期、上東門院（藤原彰子）のころ「花垣の里」と呼ばれ、村の人みんなが「奈良の都の八重桜」のもとになる桜を守っていたのである。芭蕉は自分の故郷の人たちが、みんな花守であることを誇らしげに思つて自慢したのである。今の松前町と一緒にである。

松前の人たちは、多くの人が、「あなたたちは桜を愛する法統を受け継いだ人間ですよ」という「血脉」をもらっている

中國  
ウオウチング



編・訳 上松玲子

### 3万の家政婦を排出する町

2016年4月より山西省呂梁市は市政府人力資源社会保障局が先頭になり「呂梁山護工（介助労働者）」プロジェクトを稼働、全市各所で産後ケア、ベビーシッター、付き添い、介護などの職業訓練を学费、宿泊費、食費免除で展開、仕事も斡旋した。以来4年間、多くの農民が全国に送り出され貧しさから脱した。訓練生は当初の毎期千人から2千人に拡大、2018年頃から「呂梁山家政婦」はブランドになつた。出稼ぎ農民は技術がな

くては職探しが難しい。市の担当者は事前に北京を視察し、どることに目をつけたのだ。

劉鳳清さんは51歳。北京で働いて8年目、故郷の村に180平米の家を建てたし、車もある。2年前息子の住宅購入資金40万元のうち30万元を出した。

最初は標準語も話せず、食事の味になじめず、地下鉄もわからず戸惑つた。8年後の今は産後ケア家政婦の上級資格を持ち、初めは月8千元だった月収が、1萬元以上になつた。月1万8千元8百元稼いだこともある。もちろん言葉の問題もない。

柴来鳳さんは2018年5月に山西医科大学汾陽学院の介助クラスに入った。150人の受講生は彼女と同年代で3分の2は農村の主婦だった。ほとんどが中学卒業の学歴で読み書きができる人もいた。「主婦は40歳過ぎれば子供が成長して時間の余裕ができ、働きに出られるようになる」のだ。呂梁市衛生学校の訓練科科長によれば、受

講生の85%が女性で、40歳から55歳の人が80%を占めるという。

『新京報』2020年9月21日

### 介護保険の未来

4千万人。これは現在の我が国の全身または半身麻痺の高齢者の数で、今も増え続けている。

訓練では、産後ケア、ベビー・シッターを目指す者は栄養学、産後ケア食、新生児保育に関する知識を学び、病人付き添い者を目指す者はICU看護、臨床看護、リハビリ看護などを学ぶ。柴さんは病院患者付き添いと老人介護を学ぶクラスに入つた。中年の生徒たちは皆真剣だ。研修終了を控えた6月に山東省、北京市、天津市と地元山西省の家政サービス会社数十社から募集が来て、迷つたが北京に行つてみたいと思い、北京の老人ホームを選んだ。給与は月4千元ほどで高くはないが、食事や生活

向上と家族の負担軽減に役立つている。先日、長期介護保険の試験運用地域として新たに北京市石景山区、天津市、山西省晋城市、内蒙古自治区フフホト市など14の市や区が加えられた。

農村の女性たちが得たのは金だけではない。自分自身の価値を見出し、経済的に男性に頼らなくとも貧困から抜け出せることが知つた。劉さんはいざれ自分が経験を活かし後輩の指導をしたいと思っている。

農村の女性たちが得たのは金だけではない。自分自身の価値を見出し、経済的に男性に頼らなくとも貧困から抜け出せることが知つた。劉さんはいざれ自分が経験を活かし後輩の指導をしたいと思っている。

青島市西海岸新区にある中康頤養老介護院の居室には24時間緊急通報システムが設置されている。利用者の手首の腕時計には心拍数が測れるだけでなく、位置を特定して通報する機能が備えられ、万一のときはすぐに職員が駆け付ける。78歳の入居者、韓さんはアルツハイマー病。

青島市の長期介護保険適用認定

後は薬代、治療代と一部の介護費が補償され、以前より毎月3千元ほど負担が減り、退職者給与で足りるようになつたし、専門スタッフの介護で生活の質も向上したと娘も安心している。

中国人力资源社会保障政策研究所の易春黎副所長は青島市の長期介護保険事業では経済的保障の他に、健康管理サービスにも力を入れているという。

長期介護保険は、医療保険基金の節約にもなる。江西省上饒市の長期介護保険の運営を担う中国太平洋生命保険は上饒市で長期介護保険から支給を受けるようになって1年経つ764例について分析したところ、入院日数が36・8%減少し、彼らに対する医療保険基金からの支出も40%減ったということだ。

国家医療保障局のデータによれば2019年6月末現在、試験運用している15の都市と2つの省で長期介護保険加入者は854万人、保険による補償受給者は42万6千人、補償額は年平均9千2百元という。

中国人力资源社会保障政策研究所の易春黎副所長は青島市の長期介護保険事業では経済的保障の他に、健康管理サービスにも力を入れている。

中国人力资源社会保障政策研究所の易春黎副所長は青島市の長期介護保険事業では経済的保障の他に、健康管理サービスにも力を入れているという。

今後、長期介護保険の恩恵をより多くの人が受けられるためには、資金と人員の問題を解決しなければならない。サービス対象者やサービス等級を決める介護認定基準や介護サービス等級基準が現在は地方によって基準に差がある。健全な競争を促すためにも全国的な基準の統一と、将来の予測に立った科学的な認定が必要になるだろう。

（新華毎日電訊）2020年9月23日

### 犯罪の配信の責任は

先日、女子学生が襲われる動画がライブ配信され、各部門が調査している。6月10日には配車システム「滴滴」の運転手が女性客に乱暴する動画がライブ配信され、警察が調べたところ、ある夫婦が閲覧数稼いで金儲けするため演じたもので、「滴滴」は無関係だった。

動画ライブ配信サイトの急速な発展に伴い、視聴数や利益だけを狙う配信者が現れ、結果としてライブ配信は犯罪を教唆、あるいは帮助する場となつてい

る。動画サイトの運営者に法律的責任はないのだろうか。

民法では、ライブ配信で著作権やプライバシー、肖像権など権を侵害したり、損害を与えたりした場合、サイトの運営者は相応の民事責任を負うことになる。サイト運営者と配信者の契約関係によっては、配信者に他人の権利を侵害する行為があつた場合、また、被害者の請求にもかかわらず情報の削除や遮断などの必要な措置を迅速に講じず被害が拡大した場合、インターネットサービス提供会社とユーチャーが連帯で過失責任を負うことになることもある。

民法の規定以外にも「인터넷라이브配信サービス管理規定」や「ライブ上演経営活動管理方法」などの法令がある。教育は貧困の連鎖を断ち切る根治策である。貧しい地方ほど教育が難しいが、貧しい地方ほど教育が必要なのだ。

中途退学者の激減は、教育対策が貧困対策の中で重視されるようになつたことの表れだ。施設の建設や、農村の教師の能力向上に多くの財政が投入され、政策が講じられた。

義務教育の保障という目標が基本的に実現した今、今後は、眞に支援を必要とする対象に効果的な支援を行き渡らせることに政策の重点が移される。

（光明網）2020年9月27日

### 義務教育の保障の先に

今年の9月15日現在、義務教育中の退学者は全国で昨年の60万人から今年は2419人に減少し、中でも貧困家庭の退学者は20万人から0人になつたと教育部鄭富芝副部長が発表した。昨年小学校の実質入学率は99・94%、中学校の名目入学率は102・6%ということだ。

教育は貧困の連鎖を断ち切る根治策である。貧しい地方ほど教育が難しいが、貧しい地方ほど教育が必要なのだ。

中途退学者の激減は、教育対策が貧困対策の中で重視されるようになつたことの表れだ。施設の建設や、農村の教師の能力向上に多くの財政が投入され、政策が講じられた。

義務教育の保障という目標が基本的に実現した今、今後は、眞に支援を必要とする対象に効果的な支援を行き渡らせることに政策の重点が移される。

会員彼是

# ヒトとネコとニワトリが同化する島

中川啓造（会員）

「コケコッコー」、夜が明けやらぬうちからニワトリが鳴き出しそれと相前後してイスラム教のモスクからコーランの一節が大音響で鳴り響く。ネコはネコで、こここのところ盛りがついているのか騒々しい声で日がな一日、オスがメスを追い掛け回す。

〔善隣〕2017年6月号に掲載された「途中下車の島を物語る」の舞台となつたインドネシアのジャワ海に浮かぶカリムンジャワ島からの報告です。

前回から2年3か月振りの訪問で、『地球の歩き方』にもこの島が紹介され、観光客が目立つようになってきました。

そんな中で目に付くのは、オートバイがますます増え各家庭に2台はありそう。その影響でヒトが日中外を歩かなくなり、

バイクでの移動が多くなりました。そのため生活習慣病予備軍ともいえる肥満の方が目に付くようになり、外を歩くのは、島民とほぼ同数のネコとニワトリばかりです。この島では犬を見たことがなく、またヒトがネコにちょっとかいを出さず、残飯を与えるためネコの天国です。以前訪れた瀬戸内海の青島と似た雰囲気があります。ニワトリは、イスラム圏内では豚肉を食べる事が禁止されており、その代用の肉として外で放し飼いにされ、ハレの日には締めて食されたります。

今回の訪問は特にこれはどう目的がなく、ただ島の生活の流れに身を任せてボーッと過ごしております。子どもは昼間外での遊びで体力を消耗するため夕食後バタンキューの早寝です。

日本にも高度経済成長が始まっている前には、このような濃厚な地域社会が存在したのではないか、と思われます。先進国から来た人間として感じたことは、「単純な生活ほどストレスが少ない」という結論です。



島での生活は、文明の最先端をゆくスマホも普及し始め、その他便利なモノが各家庭にも少しずつ入り込みかけています。それにもかかわらずこの島の共同社会は、イスラム教という宗教を核とした盤石な基盤を保っていると思われます。イスラム教の良いところは、持っていると体力的にも厳しく、またそんなにあくせく働かなくてもゼイタクさえしなければ何とか食べばかりです。この島では犬を見たことはなく、またヒトがネコにちょっとかいを出さず、残飯を与えるためネコの天国です。以前訪れた瀬戸内海の青島と似た雰囲気があります。ニワトリは、イスラム圏内では豚肉を食べる事が禁止されており、その代用の肉として外で放し飼いにされ、ハレの日には締めて食されたります。

# 陶々俳壇

ようよう

## 兼題「柳散る」「力」

恙なく卒寿を祝い芋煮会

◎紅約

芋煮会は東北地方で行われる季節行事で、

秋に河川敷などの野外に集まり、里芋を

使った鍋料理を作つて食べる行事である。

卒寿を迎えた方が野外料理を食され

ること自体、健康でなければできないこ

とであり祝福される行事となつた。

◎正堂

芋煮で卒寿を祝つ景がよく見えてくる句

である。自分が卒寿故引かれた句。

柳散る川は滔滔流れをり

◎明良 力強い句で秋を圧倒

影ふたつ過ぎて頤和園柳散る

◎明良 影ふたつ過ぎての表現に感動。

田の草と鬪ふ父の力こぶ

◎若杉

端居して時計を逆に廻しけり

伊藤正堂

柳散る川面をさぐる毛針かな

◎正哉

一雨に炎帝の力鎮まれり

日野正子

○善二 二雨降る毎に炎帝の力が弱まっている。

陽を弾き咲く浜木綿に力あり

○三四 上五が印象的。温暖な海岸線に群生す

大内善一

叫び声あげて転がる秋の蟬 橋本紅約  
○正堂 犬と公園を散歩するのが日課だが、突然ちっ！と声をあげて蟬が転がつたことがよくある。

張りのあるミンミン蟬のソロ響く  
・善一 ミンミン蟬が一匹独唱している。

君逝きて悲愁の秋となりにけり 佐藤若杉

○善一 親しそしていた友人が突然逝去。かなしい、そしてついの秋となつてしまつた。

秋風よ百年の知己たり君と我れ 佐藤若杉

・由紀子 「百年の知己」とは羨ましい。

## 【推敲例】

八月や低空迫る飛機数多

作者のお住まいの上空を羽田空港に離着陸する飛行機

○由紀子 足は踏むものだから「踏む」は省いて、「先に」という説明も必要ないと。一七〇

路の足のよろめき力草

○紅約 炎天の夏も終わり歩いてても涼しさを感じると自然に足取りが軽くなる。

柳散る落ちたる土に色かへず 矢野一弥

○明良 そこで、

羽田より低空迫る飛機残暑

と推敲。「八月」の季語を「残暑」に変更。「残る暑さ」という柔らかい表現より緊張感は出せるのでは。また、「飛機」と「残暑」の間に切れを置くこと少々変則的な作りではあるが緊迫感は加味されたのではないだろうか。

のためのトレーニングにはげんでいた頃  
を想い出した。

川舟に鷗舞ひ来て秋うらら  
○一弥 秋近し知る。

々

ぽつねんと上り框の秋扇 馬場由紀子

○一弥 旧居がじのばれる。

寄りかかる大樹ふはつと法師蟬 橋本紅約  
○正子 「ふはつ」との効力。

水音に力戻りぬ今朝の秋  
○三四 何が立てる水音かは読む人により様々だろう。例えば庭に水を撒く音。夏、涼の効果はなく、音にも緊張感がなかつた。しかし秋の気配を感じた今朝は、水音もはつきり響き、水までが夏の疲れが抜け元気を取り戻したかのようだ。

々

るハマユウの反り返った形が優美な真っ白い花は、たしかに日の光をそのまま弾き返しているよう。葉も大きくて艶やかでまさに力強い。和名はハマオモト、万葉の頃から親しまれているらしい。底方もありそつた。

ありそつた。

庭掃きて少し夕べの散り柳 ○正子 穏やかな情景です。

柳散る皇居の堀の片隅に ○善一 学生時代毎日皇居の外堀を走り、山登り

柳原仁哉

# 協会通信

4、継続討議「善隣協会閉鎖」の件：先月の討議に続いて、

今月もさらに突っ込んだ討議を行った。

（事務局長 藤沼弘一）

## ◆第8回理事会の議題（10月15日開催）

今月は下記内容で審議を行つた。

### ●確認事項

9／17 第7回理事会議事録（案）が確認された。

### ●決議事項

令和2年度中間決算の件：10／8監事會、10／14財政委員會を経て、この日の理事会で審議し、承認された。

### ●討議、報告事項

1、資金繰りについて（定例報告）  
2、各常任委員会報告  
3、事務局報告：10／7芝消防署管内の町内会消防訓練に参加、11／19善隣会館で自衛消防訓練を実施する予定。

ご興味がある方は、事務局（福富）までご連絡ください。

【東閨街】の夜市（表4上）

揚州は中国江蘇省中部に位置し北

に送ります。その内容は「陶々俳壇」に発表されます。

子どもたちがペンシルバルーンに集まった（表4下）

本文中の「会員彼是」ヒトとネ」と二ワトリが同化する島より。

（中川啓造）

## みんなの写真館

### 立山黒部アルペンルートから

（表紙）

本年12月末まで当会館での活動はお休みします。

※「自宅で俳句会」への投句募集 「陶々俳壇」では、俳句会のメンバーだけでなく、会員・誌友の方からの投句を募集します。自宅にいながら俳句会を楽しみましょう。

【進め方】選者の馬場田紀子先生を中心とし、その月の兼題と自由題あわせて5句を作り投句します。集まつた全部の句から7句を選びそのうち1句を各自の特選とします。その際、互いの句に選句の理由を感じたことをコメントします。馬場先生が選句結果をまとめてくださり各自に送ります。その内容は「陶々俳壇」に発表されます。

まつたく知りません。どなたか教えてください。（原田克子）

【東閨街】の夜市（表4上）

揚州は中国江蘇省中部に位置し北

に送ります。その内容は「陶々俳壇」に発表されます。

は准水と接し、南は長江に臨み、その2つの大河を結ぶ京杭運河（世界遺産）が町のすぐ近くを走る。

その昔、日本の遣唐使の多くが通路。世界的にも有名な大規模山岳観光ルート。立山駅から扇沢駅まで東西直線距離25km足らずだが、最大高低差は1975mもある。立山連峰を一望する立山ロープウェイ、黒部ダム建設に用いられたトンネルを通るトロリーバス、黒部ダムの堰堤上の徒歩移動。様々な乗り物を乗り継いで1日で縦走した。長野側から入り黒部ダムを通り、立山室堂に着いたときは一面の銀世界。標高2450mのバスターーミナルでは、ほとんどのバスは運休を決定していたが、美女平下つていぐバス1本のみ決行。それに乗り込み車窓から立山連峰の勇姿を収めた。山の名前はまったく知りません。どなたか教えてください。（村田嘉明）

揚州の有名な食べ物は「揚州炒飯」です。中国は新型コロナウイルス感染が収束し国慶節の長期休暇で市民は全国的に移動しています。写真では通行している人達はマスクを着用していません。商店の赤色の「五星红旗」は国慶節で掲揚しています。

本文中の「会員彼是」ヒトとネ」と二ワトリが同化する島より。

## 2020年12月の行事予定

2日（水） 13：00 「自宅で俳句会」

兼題「除夜、人」及び当季雑詠から5句を投句（11月末までに）

10日（木） 14：00 第3回オンライン講演会（試行）

「WITH『COVID-19』と非正規労働問題」

杉山秀子氏（駒沢大学名誉教授、当会会員）

☆本講演は、zoomで行いますが、まだ試行です。したがい、そのミーティングIDとパスコードは、当会からの配信メールに登録されている方で参加希望された方には、当日15分前までに、メールにてお知らせいたします。また、配信メールに登録されていない会員・非会員向けには、当日、15分前から講演終了時間まで、ミーティングIDとパスコードをホームページ(<http://www.kokusazienrin.com>)に掲載し公開します。

※12月29日から1月4日まで、事務局はお休みします。

### 12月の会議予定

3日（木）14：00 講演委員会 <u>(ZOOM会議)</u>	17日（木） <u>13：00</u> 理事会（第10回）
	17日（木） <u>15：00</u> 広報委員会

※下線は通常日程に変更あり。

# みんなの 写真館

ISSN0386-0345  
二〇二〇年(令和二年)十一月一日・毎月一日発行

「善隣」第五一七号（通巻七八四）

発行所

〒100-0004  
一般社団法人  
国際善隣協会  
電話 03-3573-3051  
代表会員  
東京都港区新橋一丁目五番三〇五番  
善隣協会



INTERNATIONAL GOOD NEIGHBORHOOD ASSOCIATION (IGNA)  
<http://www.kokusaizenrin.com>